2027年３月期　第２四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年11月５日

上場会社名　　ノリタケ株式会社　　上場取引所　東 名
コード番号　　5331　　ＵＲＬ　https://www.noritake.co.jp/
代表者　　（役職名）代表取締役社長　　（氏名）東山　明
問合せ先責任者　（役職名）財務部長　　（氏名）加藤　剛敏　ＴＥＬ 052-561-7116

半期報告書提出予定日　2026年11月13日　　配当支払開始予定日　2026年12月４日
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無　　：有　（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

１．2027年３月期第２四半期（中間期）の連結業績（2026年４月１日～2026年９月30日）

（１）連結経営成績（累計）　　（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年３月期中間期	78,857	15.4	7,838	65.3	10,002	50.1	7,883	45.4
2026年３月期中間期	68,314	△2.1	4,741	△12.9	6,664	△7.7	5,421	△10.4

（注）包括利益　2027年３月期中間期　11,376百万円（22.4%）　2026年３月期中間期　9,297百万円（138.0%）

	１株当たり中間純利益	潜在株式調整後１株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2027年３月期中間期	143.29	―
2026年３月期中間期	96.34	―

（注）当社は2026年４月１日付で普通株式１株につき２株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、１株当たり中間純利益を算定しております。

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	１株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2027年３月期中間期	241,918	176,626	72.5	3,186.65
2026年３月期	230,076	167,738	72.5	3,031.96

（参考）自己資本　2027年３月期中間期　175,368百万円　2026年３月期　166,743百万円

（注）当社は2026年４月１日付で普通株式１株につき２株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、１株当たり純資産を算定しております。

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年３月期	―	80.00	―	100.00	180.00
2027年３月期	―	60.00			
2027年３月期（予想）			―	60.00	120.00

（注）１．直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無
２．当社は2026年４月１日付で普通株式１株につき２株の割合で株式分割を行っております。2026年３月期については、当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しております。2027年３月期及び2027年３月期（予想）については、株式分割後の内容を記載しております。

３．2027年３月期の連結業績予想（2026年４月１日～2027年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	160,000	12.0	14,500	30.5	18,000	18.5	18,000	26.9	327.08

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※　注記事項

（１）当中間期における連結範囲の重要な変更：無

（２）中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：無
②　①以外の会計方針の変更　：無
③　会計上の見積りの変更　：無
④　修正再表示　：無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年３月期中間期	56,206,996株	2026年３月期	56,206,996株
②　期末自己株式数	2027年３月期中間期	1,174,626株	2026年３月期	1,211,576株
③　期中平均株式数（中間期）	2027年３月期中間期	55,016,700株	2026年３月期中間期	56,272,325株

※　第２四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

2027年３月期の連結業績予想につきましては、現状で判断しうる一定の前提に基づいており、今後発生する状況の変化によっては実際の業績と異なる可能性があります。なお、上記の予想の前提条件その他関連する事項につきましては、【添付資料】３ページ 「１．経営成績等の概況（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．経営成績等の概況 …… 2
（１）当中間期の経営成績の概況 …… 2
（２）当中間期の財政状態の概況 …… 2
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．中間連結財務諸表及び主な注記 …… 4
（１）中間連結貸借対照表 …… 4
（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 …… 6
中間連結損益計算書 …… 6
中間連結包括利益計算書 …… 7
（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書 …… 8
（４）中間連結財務諸表に関する注記事項 …… 9
(セグメント情報等の注記) …… 9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) …… 10
(継続企業の前提に関する注記) …… 10

○2027年３月期 第２四半期（中間期）決算短信 補足資料

１．経営成績等の概況

（１）当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間の売上高は788億57百万円（前年同期比15.4％増加）、営業利益は78億38百万円（前年同期比65.3％増加）、経常利益は100億２百万円（前年同期比50.1％増加）、親会社株主に帰属する中間純利益は78億83百万円（前年同期比45.4％増加）となりました。

セグメントごとの業績は以下のとおりであります。

なお、「２．中間連結財務諸表及び主な注記（４）中間連結財務諸表に関する注記事項（セグメント情報等の注記）」に記載のとおり、当中間連結会計期間より、組織変更に伴い「工業機材」、「セラミック・マテリアル」、「エンジニアリング」及び「食器」としていた報告セグメントを、「工業機材」、「セラミック・マテリアル」、「エンジニアリング」に変更しております。以下の前年同期比較については、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較分析しております。

（工業機材）

オーダーメイド品は、国内において、主要顧客である自動車・軸受業界の生産増加に加え、鉄鋼向けの販売が前年同期を上回り、価格改定の効果もあったことから、売上は増加しました。海外においては、北米では軸受向けが減少したものの、東南アジアでは自動車業界の生産が回復基調にあり、中国では軸受向けが好調に推移したことに加え、各地域とも為替の影響もあったことから、海外全体の売上は増加しました。成長分野である電子半導体向けは、堅調に推移しました。汎用品は、オフセット・切断砥石において、国内向けでは価格改定の効果に加え、新製品の販売が好調に推移し、海外向けでは米州及びその他の地域が堅調に推移したことから、売上は増加しました。研磨布紙は、国内及びアジアのエレクトロニクス向け製品が堅調に推移し、売上は増加しました。その結果、工業機材事業の売上高は、308億52百万円（前年同期比12.1％増加）、営業利益は価格改定の効果や為替の影響等により、18億61百万円（前年同期比295.2％増加）となりました。

（セラミック・マテリアル）

電子ペースト及び電子部品材料は、積層セラミックコンデンサ用材料において、自動車、データセンター及びＡＩサーバー向けが堅調に推移したことから、売上は大きく増加しました。セラミックコアは、交換需要及び新規需要が共に堅調で、売上は増加しました。石膏は、海外の建材関係が堅調で、売上は増加しました。蛍光表示管は、国内・海外共に堅調に推移し、売上は増加しました。厚膜回路基板は、米国向けの医療センサー用が減少したことから、売上は減少しました。セラミック原料は、半導体及びディスプレー関連向けは好調に推移したものの、耐熱ガラス用が減少したことから、売上は微減となりました。食器は、国内ではレストラン向け及びオンライン・直営店での販売が堅調に推移し、海外では米州及びアジア向けが増加したことに加え、為替の影響及び関連会社の連結子会社化もあり、売上は増加しました。その結果、セラミック・マテリアル事業の売上高は、349億７百万円（前年同期比28.0％増加）、営業利益は販売及び生産量の増加により、54億74百万円（前年同期比51.5％増加）となりました。

（エンジニアリング）

主力の焼成炉及び乾燥炉は、エレクトロニクス向けは堅調に推移したものの、リチウムイオン電池向けが減少したことから、売上は前年並みとなりました。混合装置及び濾過装置は、半導体・食品向けは堅調に推移したものの、自動車・工作機械向けは顧客の設備投資が低調であったことから、売上は減少しました。超硬丸鋸切断機は、国内向けの販売が増加し、売上は増加しました。ロードカッターは、公共工事向けの需要は低調に推移したものの、価格改定前の駆け込み需要により、売上は増加しました。その結果、エンジニアリング事業の売上高は、130億97百万円（前年同期比3.2％減少）、営業利益は５億１百万円（前年同期比23.7％減少）となりました。

（２）当中間期の財政状態の概況

①資産、負債及び純資産の状況

当中間連結会計期間末の総資産は、保有株式の時価上昇に伴う投資有価証券の増加及び有形固定資産の増加により、前連結会計年度末に比べ118億41百万円増加し、2,419億18百万円となりました。

負債は、営業外電子記録債務及び未払法人税等が減少したものの、その他の固定負債が増加したことから、前連結会計年度末に比べ29億53百万円増加し、652億91百万円となりました。

純資産は、利益剰余金及びその他有価証券評価差額金が増加したことから、前連結会計年度末に比べ88億88百万円増加し、1,766億26百万円となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末の現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前中間連結会計期間末に比べ20億77百万円増加し、132億54百万円となりました。また、当中間連結会計期間におけるフリー・キャッシュ・フローは29億66百万円の収入となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローにおける収入は、前年同期比56億15百万円増加の90億30百万円となりました。これは主に税金等調整前中間純利益の増加により資金が増加したことによるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローにおいて支出した資金は、前年同期比９億93百万円減少の60億63百万円となりました。これは主に有形及び無形固定資産の取得による支出が増加したものの、定期預金の払戻による収入が増加したことによるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローにおいて支出した資金は、前年同期比58億75百万円増加の31億17百万円となりました。これは主に前年同期に自己株式の取得による支出、短期借入金による収入の増加があったことによるものです。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2027年３月期の通期連結業績予想につきましては、本日（2026年11月５日）公表の「2027年３月期 連結業績予想の修正に関するお知らせ」に記載のとおり、2026年８月７日に公表いたしました通期連結業績予想値を修正しております。

なお、連結業績予想の前提となる為替レートは、１米ドル150円としております。

2027年３月期 通期連結業績予想値の修正（2026年４月１日～2027年３月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	１株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	157,500	13,000	16,500	17,000	309.01
今回修正予想(B)	160,000	14,500	18,000	18,000	327.08
増減額(B-A)	2,500	1,500	1,500	1,000	
増減率(%)	1.6	11.5	9.1	5.9	
(ご参考)前期実績(2026年３月期)	142,908	11,114	15,194	14,178	254.64

（注）１．業績予想につきましては、現状で判断しうる一定の前提に基づいており、今後発生する状況の変化によっては実際の業績と異なる可能性があります。

２．当社は2026年４月１日付で普通株式１株につき２株の割合で株式分割を行っております。前期実績における１株当たり当期純利益については、当該株式分割の影響を考慮しております。

２．中間連結財務諸表及び主な注記

（１）中間連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2026年３月31日)	当中間連結会計期間 (2026年９月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	19,570	17,514
受取手形及び売掛金	31,600	30,447
電子記録債権	6,225	6,280
商品及び製品	11,697	12,425
仕掛品	16,822	16,958
原材料及び貯蔵品	8,884	10,853
その他	4,560	5,076
貸倒引当金	△15	△20
流動資産合計	99,345	99,536
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	26,947	31,312
その他（純額）	35,630	35,315
有形固定資産合計	62,578	66,628
無形固定資産	2,675	2,838
投資その他の資産		
投資有価証券	53,286	60,677
退職給付に係る資産	10,884	11,010
その他	1,441	1,355
貸倒引当金	△134	△127
投資その他の資産合計	65,477	72,915
固定資産合計	130,731	142,381
資産合計	230,076	241,918

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2026年３月31日)	当中間連結会計期間 (2026年９月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,708	8,484
電子記録債務	6,885	8,825
短期借入金	13,155	12,936
未払法人税等	4,112	2,464
賞与引当金	1,863	1,910
引当金	1,479	893
設備関係支払手形	163	61
営業外電子記録債務	4,066	1,825
その他	8,976	8,220
流動負債合計	48,409	45,622
固定負債		
引当金	989	719
退職給付に係る負債	1,226	1,149
その他	11,712	17,799
固定負債合計	13,928	19,669
負債合計	62,338	65,291
純資産の部		
株主資本		
資本金	15,632	15,632
資本剰余金	18,387	18,387
利益剰余金	101,237	106,319
自己株式	△1,614	△1,560
株主資本合計	133,643	138,779
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	22,621	27,105
為替換算調整勘定	5,387	4,742
退職給付に係る調整累計額	5,091	4,742
その他の包括利益累計額合計	33,100	36,589
非支配株主持分	994	1,257
純資産合計	167,738	176,626
負債純資産合計	230,076	241,918

（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

（中間連結損益計算書）

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
売上高	68,314	78,857
売上原価	48,985	55,383
売上総利益	19,329	23,473
販売費及び一般管理費		
販売費	9,128	9,574
一般管理費	5,459	6,060
販売費及び一般管理費合計	14,588	15,635
営業利益	4,741	7,838
営業外収益		
受取利息	166	132
受取配当金	616	677
受取賃貸料	326	459
為替差益	－	116
持分法による投資利益	938	1,042
その他	133	201
営業外収益合計	2,180	2,630
営業外費用		
支払利息	50	102
為替差損	33	－
固定資産賃貸費用	128	256
その他	45	107
営業外費用合計	257	466
経常利益	6,664	10,002
特別利益		
固定資産売却益	5	17
投資有価証券売却益	754	915
負ののれん発生益	－	498
特別利益合計	760	1,431
特別損失		
固定資産処分損	141	64
減損損失	－	540
投資有価証券評価損	46	2
段階取得に係る差損	－	82
その他	0	0
特別損失合計	188	691
税金等調整前中間純利益	7,236	10,743
法人税、住民税及び事業税	1,567	2,472
法人税等調整額	242	380
法人税等合計	1,809	2,852
中間純利益	5,426	7,890
非支配株主に帰属する中間純利益	5	7
親会社株主に帰属する中間純利益	5,421	7,883

(中間連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自　2025年４月１日 至　2025年９月30日)	当中間連結会計期間 (自　2026年４月１日 至　2026年９月30日)
中間純利益	5,426	7,890
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,440	4,483
為替換算調整勘定	637	△648
退職給付に係る調整額	△206	△349
その他の包括利益合計	3,870	3,486
中間包括利益	9,297	11,376
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	9,265	11,372
非支配株主に係る中間包括利益	31	4

（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	7,236	10,743
減価償却費	2,713	3,020
負ののれん発生益	－	△498
減損損失	－	540
段階取得に係る差損益（△は益）	－	82
貸倒引当金の増減額（△は減少）	△14	△2
退職給付に係る負債及び資産の増減額	△472	△491
引当金の増減額（△は減少）	△76	△224
受取利息及び受取配当金	△782	△810
支払利息	50	102
持分法による投資損益（△は益）	△938	△1,042
有価証券及び投資有価証券売却損益（△は益）	△754	△915
有価証券及び投資有価証券評価損益（△は益）	46	2
有形及び無形固定資産除売却損益（△は益）	136	47
売上債権の増減額（△は増加）	△1,186	1,041
棚卸資産の増減額（△は増加）	△1,427	△2,662
仕入債務の増減額（△は減少）	△500	2,738
その他	1,255	△43
小計	5,285	11,628
利息及び配当金の受取額	782	810
利息の支払額	△50	△102
法人税等の支払額又は還付額（△は支払）	△2,602	△3,306
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,415	9,030
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形及び無形固定資産の取得による支出	△7,224	△8,655
有形及び無形固定資産の売却による収入	18	32
投資有価証券の取得による支出	△116	△19
投資有価証券の売却による収入	1,109	936
貸付けによる支出	△34	△2
貸付金の回収による収入	9	4
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	－	51
定期預金の預入による支出	△3,362	△2,909
定期預金の払戻による収入	2,914	4,668
その他	△370	△170
投資活動によるキャッシュ・フロー	△7,057	△6,063
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（△は減少）	9,020	△217
自己株式の取得による支出	△4,144	△1
配当金の支払額	△2,013	△2,800
その他	△103	△97
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,758	△3,117
現金及び現金同等物に係る換算差額	209	△54
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△673	△205
現金及び現金同等物の期首残高	11,851	13,460
現金及び現金同等物の中間期末残高	11,177	13,254

（４）中間連結財務諸表に関する注記事項

（セグメント情報等の注記）

【セグメント情報】

Ⅰ　前中間連結会計期間（自　2025年４月１日　至　2025年９月30日）

１　報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			
	工業機材	セラミック・マテリアル	エンジニアリング	計
売上高				
顧客との契約から生じる収益	27,519	27,271	13,523	68,314
外部顧客への売上高	27,519	27,271	13,523	68,314
セグメント利益	471	3,612	657	4,741

（注）　報告セグメントの利益は、営業利益であります。

２　報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要な事項はありません。

Ⅱ　当中間連結会計期間（自　2026年４月１日　至　2026年９月30日）

１　報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			
	工業機材	セラミック・マテリアル	エンジニアリング	計
売上高				
顧客との契約から生じる収益	30,852	34,907	13,097	78,857
外部顧客への売上高	30,852	34,907	13,097	78,857
セグメント利益	1,861	5,474	501	7,838

（注）　報告セグメントの利益は、営業利益であります。

２　報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当中間連結会計期間において、株式会社大倉陶園の株式を追加取得し、連結範囲に含めたことにより、「セラミック・マテリアル」セグメントにおいて、負ののれん発生益を認識しております。当該事象による負ののれん発生益の計上額は、498百万円であります。なお、負ののれん発生益は特別利益のため、上記セグメント利益には含まれておりません。

３　報告セグメントの変更等に関する事項

当中間連結会計期間より、組織変更に伴い食器事業をセラミック・マテリアル事業に編入しており、報告セグメントを「工業機材」、「セラミック・マテリアル」、「エンジニアリング」に変更しております。

なお、前中間連結会計期間のセグメント情報については、変更後のセグメント区分に組み替えた数値を記載しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)
該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)
該当事項はありません。

2026年11月5日
ノリタケ株式会社

【ご参考】 2027年3月期 第2四半期（中間期）決算短信 補足資料

1. 当期連結業績の概要

【業績】
売上高 789億円（前年同期比 105億円増収） 営業利益 78.4億円（前年同期比 31.0億円増益）
USD 13.97円の円安、THB 0.37円の円安、CNY 3.30円の円安により、
売上高16.6億円増加、営業利益2.9億円増加
経常利益 100.0億円 （前年同期比 33.4億円増益）
親会社株主に帰属する中間純利益 78.8億円（前年同期比 24.6億円増益）

【連結の範囲】
連結会社 24社（1社増加：㈱大倉陶園） 持分法適用会社 2社（1社減少：㈱大倉陶園）

【特別損益】
特別利益 14.3億円：投資有価証券売却益 9.2億円、負ののれん発生益 5.0億円等
特別損失 6.9億円：減損損失 5.4億円、段階取得に係る差損 0.8億円等

【中間配当金】
中間配当 60円/株（前期中間80円/株※） 期末配当 60円/株 予定（前期期末100円/株※）
※前期中間及び前期期末については、2026年4月1日付の株式分割前を基準とした金額を記載しています。

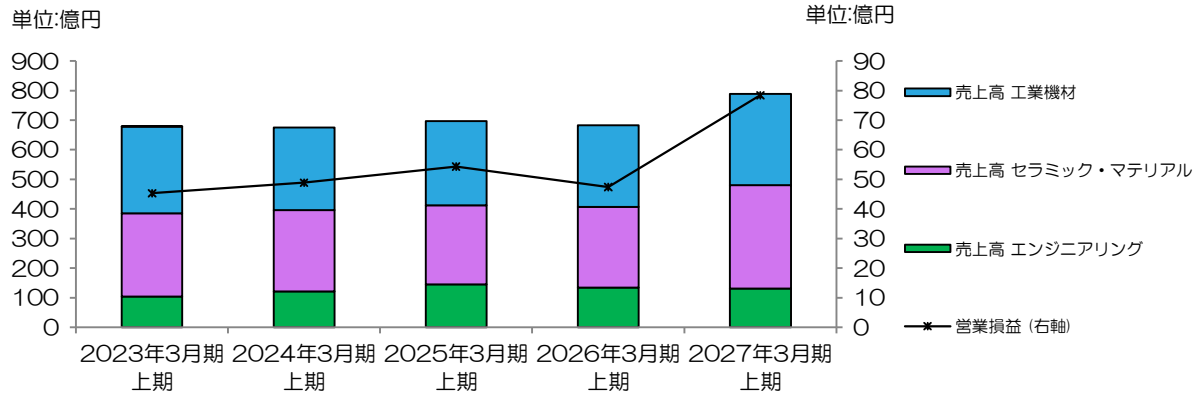
(1) 業績推移

（単位：億円 四捨五入）

		2023年3月期 上期実績	2024年3月期 上期実績	2025年3月期 上期実績	2026年3月期 上期実績	2027年3月期 上期実績	対前年同期比
売上高	工業機材	293	279	284	275	309	33
	ｾﾗﾐｯｸ・ﾏﾃﾘｱﾙ	281	275	269	273	349	76
	（内、食器）	(31)	(35)	(32)	(31)	(36)	(4)
	ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ	104	121	145	135	131	△ 4
		678	676	698	683	789	105
営業利益	工業機材	14.8	9.6	10.4	4.7	18.6	13.9
	ｾﾗﾐｯｸ・ﾏﾃﾘｱﾙ	24.9	31.8	35.1	36.1	54.7	18.6
	（内、食器）	(△3.1)	(△0.4)	(△2.5)	(△2.5)	(△1.1)	(1.4)
	ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ	5.6	7.5	9.0	6.6	5.0	△ 1.6
		45.3	48.9	54.4	47.4	78.4	31.0
(売上高営業利益率)		(6.7%)	(7.2%)	(7.8%)	(6.9%)	(9.9%)	-
経常利益		65.8	69.6	72.2	66.6	100.0	33.4
親会社株主に帰属する中間純利益		51.8	57.9	60.5	54.2	78.8	24.6
1株当たり中間純利益※		89.65円	100.14円	104.43円	96.34円	143.29円	-
1株当たり純資産※		2,163.14円	2,344.95円	2,573.45円	2,785.25円	3,186.65円	-
USD 為替レート		135.3円	142.6円	152.5円	146.1円	160.0円	-

※ 2023年3月期の期首に株式分割が行われたと仮定して算出しています。

売上高及び営業損益の推移（2023年3月期上期-2027年3月期上期）



(2) 設備投資及び減価償却費

（単位：億円　四捨五入）

	2026年3月期 上期		2027年3月期 上期	
	設備投資	減価償却費	設備投資	減価償却費
工業機材	14	12	21	12
セラミック・マテリアル	27	10	17	11
（内、食器）	(2)	(2)	(1)	(2)
エンジニアリング	1	2	2	2
管理部門	24	4	7	5
合計	66	27	47	30

(3) 有利子負債

（単位：億円　四捨五入）

	2023年3月	2024年3月	2025年3月	2026年3月	2026年9月	対前期比
有利子負債※	125	26	61	132	129	△ 2
現金及び預金	146	213	166	196	175	△ 21
ネット有利子負債	△ 22	△ 187	△ 105	△ 64	△ 46	18

※ 有利子負債には、リース債務は含めておりません。

2. 2027年3月期の予想

(1) 重点施策

【工業機材】

- オーダーメイド品事業では、市場の変化に迅速に対応するため、従来の製品別から市場別（成長領域別）に事業体制を再編しました。新たな体制のもと、徹底した収支改善（拡販・価格適正化・OEM活用・原価低減等）に取り組みます。汎用品事業では、国内及びタイ国の製造体制の再編と整備により競争力を高め、収益改善を図ります。
- エレクトロニクス分野を中心に成長領域向けの新商品の開発、販路の拡大、増産体制の確立に取り組むとともに、国内及び海外の販売拠点の整備、販売・製造システムの刷新を進めます。

【セラミック・マテリアル】

- 電子ペーストは、価格の適正化と製品ラインナップの拡充を進めるとともに、パワー半導体周辺材料への参入と量産化に取り組みます。電子部品材料は、主力の積層セラミックコンデンサ用材料の生産能力の増強とともに、製造基盤の整備と原価低減による競争力の強化を図ります。
- 印刷技術を中核とした事業ポートフォリオの再編を行いました。製造拠点の集約を進めるなど、高収益で高効率な事業基盤を確立します。
- 成長領域（環境・エレクトロニクス・ウェルビーイング）向け新商品の開発を進めます。
- 2026年４月１日付でセラミック・マテリアル事業に編入した食器事業は、体制のスリム化と事業運営の効率化を図ります。あわせて、セラミックス事業とのシナジー創出を通じて、収益改善に向けた構造改革を進めます。

【エンジニアリング】

- 主力のエネルギー、エレクトロニクス分野では、開発、販売、製造、品質管理体制の整備と、アフターサービス（メンテナンス・消耗品販売等）体制の確立により、シェアの拡大を図ります。
- 新しい分野（医薬、半導体、サーキュラーエコノミー）への参入と市場の開拓、成長領域（環境・エレクトロニクス・ウェルビーイング）での新用途・新商品の開発を進めます。

【設備投資金額】

設備投資　110億円　　減価償却費　60億円

(2) 業績予想

（単位：億円　四捨五入）

		2026年3月期	2027年3月期　業績予想			
		通期実績	上期実績	下期予想	通期予想	通期増減
売上高	工業機材	564	309	302	610	46
	セラミック・マテリアル	568	349	331	680	112
	（内、食器）	(67)	(36)	(40)	(75)	(8)
	エンジニアリング	298	131	179	310	12
		1,429	789	811	1,600	171
営業利益	工業機材	14.9	19	9	28	13
	セラミック・マテリアル	78.7	55	45	100	21
	（内、食器）	(△ 3.6)	(△ 1)	(1)	(0)	(4)
	エンジニアリング	17.6	5	12	17	△ 1
		111.1	78	67	145	34
経常利益		151.9	100	80	180	28
親会社株主に帰属する当期純利益		141.8	79	101	180	38

（下期想定為替レート　USD=150円）